

住民の和と産品開発のたゆまぬ努力が実を結ぶ

滋賀・西浅井町

中小企業診断士／二瓶哲

「住民参加による地域商業の振興」。言うは易く行うは難しである。琵琶湖北部に面した山紫水明のまち西浅井町は、「手づくり」にこだわった商業振興で注目されている。

1994年、商工会中心に「道の駅」構想が持ち上がり、「自分達でできるところから始めよう」と地域の草の根活動が展開されていった。

95年には、地域資源発掘調査事業とともに、まちおこしの先進地視察を行い、その発想の豊かさと行動力に刺激を受けて帰る。そこで、96年には町内産の真鴨を使った料理、カモのスモークハム、鴨そばなどの新たな地域特産品が誕生した。

97年、その昔、琵琶湖水運の要衝であったという地域特性にこだわり、道の駅ならぬ「水の駅」がついにオープンした。当初はテント張りの粗末な手づくり施設で販売を行うという、ささいなものであったが、26人の地元有志が共同出資した「(有)西浅井町まちおこし商会」が設立されると、木と竹を素材にした、手づくりの販売小屋2棟(40㎡)が整備され、販売所の活動も活発化していった。今は販売所のみであるが、ゆくゆくはレストラン、観光農園などの施設を整備し、町の人気観光スポットにしたいという。

販売所の運営の大きな特徴は、町民なら誰でも出店できる“町民持ち寄り”の販売形式を採用していること、もう1つは、販売する品目を町内で生産・加工されたものに限定していることである。こうした特徴は次第に注目を浴びはじめ、週末には午前中で品切れをおこすほどである。現在の年間売上高は5000万円超であるが、1億円に達するのはそう

時間はかからないであろう。98年には、NHKで全国放送され、中京・阪神中心に商圈も大幅に拡大し、地元の成長産業のひとつとして定着した。

西浅井町「水の駅」は、あくまでも地域住民の和と地域産品開発のこだわりを捨てなかったことが成功の一因であるといえよう。